



ほっと多摩

- ・新看護部長・インタビュー【看護部長】
- ・認定看護師・インタビュー【看護部】
- ・脳神経内科の紹介【脳神経内科】
- ・乳がん検診のはなし【乳腺科】
- ・認知症のはなし【薬剤部】
- ・高額療養制度って何？【医事課】
- ・やすらぎの空間【庶務課】



2025

4

April

Nippon Medical School



Vol.11

Hot Tama



日本医科大学 多摩永山病院
NIPPON MEDICAL SCHOOL TAMANAGAYAMA HOSPITAL

新看護部長インタビュー

2025年4月に看護部長に就任した小見山かおりと申します。

地域の皆様と共に、多摩永山病院の発展のために尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



Q: 多摩永山病院と看護部に対する思いを教えてください。

当院は2027年に開院50周年を迎えます。看護部には、助産師・看護師・看護助手など約600人の職員が在籍しています。施設の老朽化にも負けず、工夫をしながら日々患者さんのために看護にあたっております。

患者さんからのご意見を3か月に一度、ホームページに掲載しています。たくさんのお褒めの言葉をいただいております。感謝申し上げます。当院の看護師が患者さんおひとりお一人に丁寧に誠実に向き合い看護をしていることに誇りを感じております。

また、当院には多くの看護学生がインターンシップに来院し、看護の実際を体験します。日本医科大学の看護の原点である「“ナースコールを鳴らさない看護”を実践している、病棟の雰囲気が良い、コミュニケーションをとりやすい環境である」などのうれしい感想をいただきます。患者さんだけではなく、一緒に働く他の医療スタッフとの垣根のないコミュニケーションを取っている姿も伝わり、当院はやはり「人」が自慢で財産であると思っております。

Q: 休日の過ごし方について教えてください。

ONとOFFをしっかり区別するために、出かけていることが多いです。私は横浜 DeNA ベイスターズの大ファンなので、時々横浜スタジアムに行き、応援しています。広大な球場を見渡すと気分がスッキリしてきます。試合に勝つとさらにスッキリします（笑）。

また、旅をすることも好きです。これまで47都道府県のうち、45都道府県まで訪れることができました。残りは2県、宮崎県と佐賀県に行くことができればコンプリートです！

旅行計画を綿密に立て見知らぬ土地を訪れリフレッシュし、仕事を頑張っております。

Q: 地域住民の方へのメッセージをお願いします。

開院50周年を目前に控え、これまで地域住民の皆さまの健康増進に努め、高度な医療を追求し、良き医療人を育てることを病院理念として、この地域の基幹病院としての役割を果たしてきました。これからも職員一同が一丸となり医療を提供して参ります。時には至らない点もあるかと思いますが、率直なご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



看護部 認定看護師インタビュー

昨年、新たに感染管理と皮膚・排泄ケア看護の認定看護師2名が誕生しました。

当院には、専門看護師が2名、認定看護師が30名、認定看護管理者が3名在籍しています。また、特定行為研修を修了している看護師も15名います。ほっと多摩第9号につづき、今回も新認定看護師2名にインタビューしました。



感染管理認定看護師 Oさん



皮膚・排泄ケア認定看護師 Aさん

Q1. 当院に入職したきっかけを教えてください

(Oさん)

看護学生のときに参加した夏季看護助手アルバイトで、救命救急センターで10日間働かせていただきました。人の命を救う現場の本気さと緊張感がありながら、スタッフ間はとてもアットホームでチームワークがよく、私もこの素敵な先輩方と一緒に看護を試みたいと思い、多摩永山病院に入職しました。

(Aさん)

新卒で総合病院に就職し一般外科病棟で勤務をしていましたが、学生の頃から救急医療に興味があり、せっかくなら救急医療で有名な日本医科大学で働いてみたいと思い転職しました。

Q2. 実際に働いてみてよかった点は何ですか？

(Oさん)

人に恵まれたところ。思いやりがあり心が優しい人が多いので、人間関係は良い職場環境だと思います。頑張りたいときは頑張れるように背中を押してくれて、挫けそうときは寄り添ってくれる温かさがあります。大きすぎない規模の病院なので、部署の垣根を超えて顔が見える関係づくりがしやすいところも良いところです。

(Aさん)

院内ラダーの他に病棟独自のステップアップが明確に提示されていたため、自身の目標を定めて学習計画を立てることができました。また、プリセプター・メンター制を導入しているためフォロー体制が充実しており、困った時に相談する窓口が明確になっていることも良いところです。スタッフは活気があり明るい職場環境だと思います。

Q3. 休日の過ごし方を教えてください

(Oさん)

予定が合えば親しい友人と食事に行きます。また、晴れた日は2時間以上散歩をしています。多摩の街は素敵な自然もあり、入ってみたいお店もたくさんあるので、音楽を聴いて癒されながら歩いています。

(Aさん)

プロレス観戦をしたり、テーマパークに行って日々のストレスを発散しています。定期的に認定同期の仲間とzoomで集まり情報交換をして学習に充てる日もあります。

Q4. 認定看護師を目指そうと思ったきっかけは何ですか？

(Oさん)

救命救急センター在籍中に、重症な患者さんに対する感染対策の重要性を学びました。と同時に感染対策は1人ではできないことも痛感しました。正しい知識と感染防止のための技術を身に付け、感染対策の質が向上できるように活動したいと思い、認定看護師を目指しました。

(Aさん)

救命救急センターでの経験の中で防ぎえた創傷を経験し、もっとできることはなかったのかと考えることが多くあり、自身の知識と技術力を向上したいと考えたからです。

Q5. 認定看護師としてどのような活動をしていこうと思っていますか。

(Oさん)

感染制御チームの一員として、院内の患者さんや家族、職員を感染から守るための活動をしていきます。感染対策は目に見えない病原体に対する対策なので、不安や困りごとも多いと思います。なるべく不安なく適切な対応ができるよう、現場に足を運び、スタッフの方と話をしながら一緒に感染対策を実践していきたいと思っています。

(Aさん)

まずは、院内全体を横断的に活動して私自身の顔と名前を覚えていただき、創傷管理や予防ケアで困った時に相談しやすい環境を作っていけたらと考えています。

Q7. 自分や職場の課題があれば教えてください。

(Oさん)

感染管理は院内全体を横断的に活動する分野なので、まずは感染管理認定看護師としての私の存在を知ってもらうことが課題です。

(Aさん)

なんでも自分で解決してしまおうとするところがあるため、周りを巻き込んで解決策を導いていけるようにしていきたいです。



脳神経内科について

日本医科大学多摩永山病院脳神経内科は、2022年4月より脳神経内科専門医3人を
含む計4人体制となり、外来・入院ともに幅広い疾患を受け入れる事ができる体制になりました。
2025年4月からは脳神経内科専門医3人を含む計6人体制となり、さらに多くの患者様の治
療ができるようになりました。

外来は、脳神経内科・脳神経外科・精神神経科の3科で脳神経センターとして運営し、脳血
管障害、神経変性疾患、神経免疫疾患、認知症、頭痛など、最新の治療が行える環境となっ
ています。

認知症の最新治療

当院だからこそ治療が可能なものとしては、認知症の最新治療薬である**レカネマブ**（商品名：**レケンビ**）・**ドナマブ**（商品名：**ケサンラ**）の治療があります。東京都のホームページに治療可
能施設の一覧が掲載されていますが、**多摩市では当院のみ**となっています。治療について興味のある方は、是非ご相談ください。

https://www.fukushi1.metro.tokyo.lg.jp/zaishien/ninchishou_navi/soudan/iryou_kikan/rekanemabu_touyo/index.html#rekanemabu

頭痛の最新治療

頭痛診療についても、頭痛専門医が診断から最新治療まで、丁寧に説明し、対応することができます。頭痛なんて我慢するしかない、と諦めるのは昔の話です。治療によって、日々の生活が変わったという患者様が多くなります。是非、一度ご相談ください。

当科の入院診療実績

当科の入院実績は年間350人前後で、4割が脳卒中（脳梗塞、脳出血）、4割が脳卒中以外の神経疾患（脳炎、髄膜炎、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症など）、2割が一般内科疾患（肺炎、尿路感染など）です。治療によって、自宅退院を目指しますが、自宅に退院できない場合も、リハビリできる病院に転院していただき、そこから自宅へと退院できるように対応していきます。

脳卒中の最新治療

近年増加している脳卒中診療においては、当科は脳神経外科、救命救急科と合同で脳卒中ホットラインを維持することにより、24時間365日、脳卒中超急性期治療が可能な体制を構築しています。超急性期の脳血栓回収術は3科合同で、2024年度は約50件と年々増加傾向となっており、より多くの患者様に最適な治療を最速で提供できるように日々努力しています。

脳神経内科部長 齊藤 智成



脳神経内科スタッフ一同



脳血栓回収術の様子

乳がん検診のはなし

乳がん検診を受けましょう

- ☑ 乳がんは女性で最も多いがんで、国内で毎年9万人以上が乳がんと診断されています。
- ☑ 女性のおよそ9人に1人が乳がんを経験します。
- ☑ 遺伝が関係する乳がんは、全体の1割弱です。
家族に乳がんの方がいなくても、安心できません。
- ☑ おいくつになっても乳がんになる可能性があります。
特に、閉経後の方の「しこり」は、乳がんの可能性が高くなります。
- ☑ 乳がんは、早期に治療することで多くの方が治るがんとしても知られています。
- ☑ 早期発見のために、40歳以上の方は2年に1度は乳がん検診マンモグラフィを受けましょう。



当院で多摩市乳がん検診が受けられます。

QRコードを読み取ることで、3つの内容の詳細をみることができます。

「乳がん検診は必要？」



「乳がんは遺伝が原因？」



「年だから乳がんにならないと思っていませんか？」



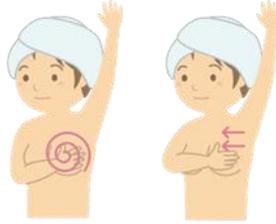
「ブレストアウェアネス(乳房を意識する生活習慣)」とは？

- ☑ ご自身の乳房の状態を知りましょう。
- ☑ 乳房の変化に気をつけましょう。
- ☑ 変化に気づいたら、医師に相談しましょう。
- ☑ 40歳になったら、2年に1回乳がん検診を受けましょう。

マンモグラフィ検診は「乳がんの死亡率を減少させることが科学的に証明された」検診です。
定期的に受診することで、以前の画像と比較して（比較読影といいます）、変化の有無を確認することができます。

セルフチェックの方法

- ☑ 乳房をつままない
- ☑ 押さえつけるようにして、滑らせる
- ☑ 月経の直前は避ける
- ☑ 巨峰くらいの大きさのしこり（膨らみ）を見つける気持ちで



マンモグラフィや超音波検査で、「しこり」になる前のがんが見つかることもあります。
乳がんでつらい思いをしない、させないためにも、乳がん検診を受けましょう。

乳腺科

認知症のはなし

認知症を正しく知る ～ともに歩むために～

はじめに

超高齢社会を迎えた日本では、認知症は誰にとっても身近な問題となっています。認知症と軽度認知障害を合わせると、65歳以上の患者の実に27.8%に達します。そのため家族や地域社会が共に支え合うことがこれまで以上に求められています。

認知症とは何か、家族としてどのように向き合えばよいか、そして最近話題となっている新しい治療薬について、当院の取り組みをご紹介します。

認知症とは？

認知症は、記憶力や判断力、理解力などの「認知機能」が低下し、日常生活に支障をきたす状態のことを指します。代表的な原因疾患には下図にお示しますが、なかでもアルツハイマー型認知症は最も多く、全体のおよそ6割を占めています。

認知症の代表的な原因疾患

- ・アルツハイマー型認知症
- ・脳血管性認知症
- ・レビー小体型認知症
- ・前頭側頭型認知症

認知症の特徴は？

初期には「物忘れ」が目立ちますが、徐々に道に迷う、予定が分からなくなる、感情の起伏が激しくなるといった症状が現れてきます。また、幻覚や妄想、不安、怒りといった「認知症の行動・心理症状」が見られることもあります。



病状が進行してしまうとは「一人暮らしが困難なほど認知機能が低下した状態」となってしまうお金の扱いや、服薬や食事、生活の様々なことを一人で行うことが難しくなります。

軽度認知障害 (MCI: Mild Cognitive Impairment) とは？

本人や周囲が認知機能の低下を自覚しており、同年代と比べても認知機能がやや劣っているものの、日常生活は基本的に自立して送ることができる状態を指します。ここが認知症とは異なる部分になります。

軽度認知障害の症状は？

よく知っている場所への移動や慣れた機器の操作は問題なくこなせる一方で、新しい場所や機器には対応しづらくなる傾向があります。また、日常生活は何とかこなせるものの、動作が以前のように「テキパキ」とは行えなくなってきました。

認知機能は加齢とともに少しずつ低下しますが、軽度認知障害の方はその低下が年齢相応の範囲を超えて進んでいる状態と言えるでしょう。一部の方は軽度認知障害から認知症へ進行するとされています。

介護と認知症

認知症は、高齢者が「要介護」と認定される最も大きな原因のひとつです。厚生労働省の統計によれば、要介護となる原因の第1位が認知症であり、全体の約18%を占めています。これは、脳卒中や高齢による衰弱、骨折などを上回る割合です。

介護疲れの原因に

認知症になると、日常生活に支障が出るだけでなく、徘徊や幻覚、介護への拒否といった行動・心理症状が現れることもあり、身体的な介助以上に対応が難しいケースが多くなります。



認知症の介護は、身体の手世だけでなく、精神的なサポートやコミュニケーションの工夫が求められるため、介護者にとって大きな負担となります。介護が長期化すると、介護疲れや心身の不調、場合によっては介護うつや離職、家庭内のトラブルへとつながることもあります。

認知症と向き合うために

認知症の治療で最も重要なのは早期発見・早期介入です。現時点で認知症を完全に治療することはできません。それでも早期発見をすることで、患者とのかかわりをこれまでとほんの少し変えるだけで、患者も家族も負担を和らげることにつながります。また患者との時間を多くとることができ、家族との時間はかけがえのないものになります。

認知症の方との接し方

認知症の診断を受けた方の多くは、最初に「戸惑い」や「不安」に包まれます。これまでできていたことがうまくできなくなる、物事を思い出せない。周囲が驚いたり否定したりするたびに、「自分はおかしくなってしまったのか」と深い孤独を感じる場合があります。

家族としてのかかわり方

①否定しないこと

「さっきも言ったでしょ」と返すより、「そうなんだね」と受け止めてあげることが大切です。

②「できること」を尊重する

本人にできることはなるべく任せることが、自己肯定感や自信を保つことにつながります。

新しい治療薬「レカネマブ」と「ドナネマブ」

これまでの認知症治療は、進行を遅らせたり、症状を和らげる「対症療法」が主でした。しかし、近年登場した「レカネマブ(レケンビ®)」や「ドナネマブ(ケサンラ®)」は、病気の原因に直接働きかけ、進行そのものを遅らせる効果が期待されています。

当院での新規治療薬の取り扱いについて

話題の新しい治療薬「レカネマブ(レケンビ®)」や「ドナネマブ(ケサンラ®)」の使用が可能となりました。



治療の適応や安全性については、専門的な評価が必要なため、初めて当院を受診される方は、かかりつけ医からの紹介状をご持参くださいますようお願いいたします。当院がかかりつけの場合は主治医へご相談ください。

「レカネマブ(レケンビ®)」や「ドナネマブ(ケサンラ®)」使用に必要な検査と負担について

新規認知症治療薬使用に必要なこと

- ①軽度認知障害であること
- ②PET 検査の実施
(文京区千駄木の日本医科大学付属病にて)
- ③MRI 検査を複数回実施



PET 検査は文京区千駄木の日本医科大学付属病院にて検査を実施しております。患者さんやご家族には移動や検査費用などの面でご負担をおかいたします。

また副作用(特に脳のむくみや出血)の有無を確認するために、定期的かつ頻回なMRI検査も必要です。これもまた身体的・時間的な負担となる可能性があるため、ご本人とご家族の協力が重要になります。

また医療費の自己負担割合に応じた、薬剤費も負担となります。心配なことはご相談ください。

おわりに

認知症と診断されてしまうと、患者もその家族も大変な負担を感じると思います。



家族だけで抱え込まず、地域や専門職に頼ることが重要です。介護保険サービスの活用、介護者の相談窓口、レスパイト（一時的な休息）の仕組みなど、負担を軽減する支援策をうまく取り入れていきましょう。当院でも医療相談を実施していますので、お気軽にご相談ください。

薬剤部

高額療養費制度って何？

※ 昨年度末、テレビ、新聞などの報道で聞かない・見ない日は無かったと言っても過言ではない

「高額療養費制度」

という言葉。そもそも高額療養費制度ってどんな制度？と思いながらニュースに触れていた人のために、現行の制度についてお話しします。

高額療養費制度とは、医療費の家計負担が重くならないよう、医療機関や薬局の窓口で支払う医療費が1か月（暦月：1日から末日まで）で上限額を超えた場合、その超えた額を支給する制度です。ただし、入院時の食費負担や差額ベッド代等は含みません。

では、実際に医療費がいくら以上になったら支給を受けることができるのか、その上限額は年齢や所得によって異なります。70歳以上の患者さんの場合は以下ようになります。

<70歳以上の方の上限額（平成30年8月診療分から）>

適用区分		外来(個人ごと)	ひと月の上限額(世帯ごと)
		現役並み	
年収約1,160万円～ 標報83万円以上 / 課税所得690万円以上			
年収約770万円～約1,160万円 標報53万円以上 / 課税所得380万円以上		167,400円 + (医療費 - 558,000) × 1%	
年収約370万円～約770万円 標報28万円以上 / 課税所得145万円以上		80,100円 + (医療費 - 267,000) × 1%	
一般	年収156万～約370万円 標報26万円以下 課税所得145万円未満等	18,000円 〔年14万4千円〕	57,600円
非住民課税等	Ⅱ 住民税非課税世帯	8,000円	24,600円
	Ⅰ 住民税非課税世帯 (年金収入80万円以下など)		15,000円

注 1つの医療機関等での自己負担（院外処方代を含みます。）では上限額を超えないときでも、同じ月の別の医療機関等での自己負担を合算することができます。この合算額が上限額を超えれば、高額療養費の支給対象となります。

(厚生労働省保険局 HP より抜粋)

高額療養費の負担上限額の引き上げは、今年8月については見送られましたが、今後の動向が気になるところで

やすらぎの空間

癒しの医療機関として

永山駅から当院へ向かい、歩道橋を降りると駅側病院入口まで花壇一面に色とりどりに植えられたパンジーやキンセンカ、ナデシコ、ビオラ、プリムラ等々の花たちが来院される方々を迎えています。

これまでもなんとか患者さんの癒しにつながるようなものを造りたいと試行錯誤してきました。ヘデラを植えてもみましたが。緑が綺麗であるのですがツタが伸びるのが著しく歩道にまで広がり、滑りやすく困ったこともあります。職員から色々な意見があった中、やすらぎの場を作りたいという考えで、この度、社会福祉法人開く会「フラワーアーク」のご協力をいただき花壇にたくさんの花を植栽することができました。突き当りには当院自慢のグレイス・ガーデン（庭園）があり、みなさん方からやすらぎの通りとして好評いただいております。

多くの患者さん方が往来されます。完治して帰られる方もあれば、病と闘っている方もおられます。どちらにしても休憩したいと思えるようなやすらぎの通りとしてさらに創意工夫を考えていきたいと思えます。

季節ごとに季節にあった花を植栽し、来院されるみなさんには目でも楽しんでいただき、喜んでいただきたいと思います。

また院内には、陛下とも交流があった藪野画家のご厚意を賜り絵画、現在7作品が展示されています。藪野先生は当院を大変に気に入ってくださっており、患者さんのメンタル面にご自身の絵画が支えになればとご提供いただいております。

当院はこれからも患者さんの癒しの医療機関として喜ばれる病院を目指してまいります。

庶務課

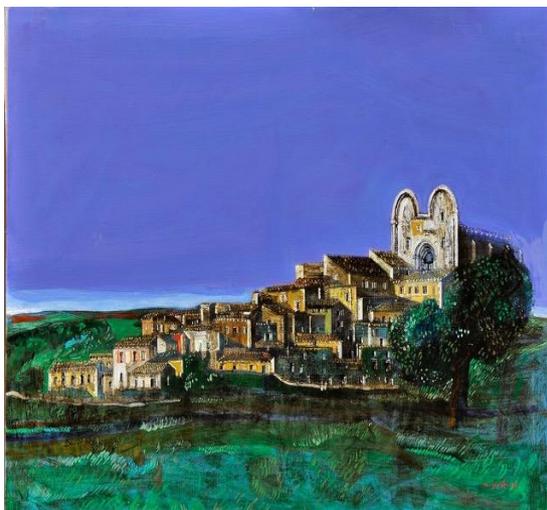




「サンミケーリと語る日」



「町に朝の光が」



「知らない町を辿る」



「ふりかえると心楽しく」